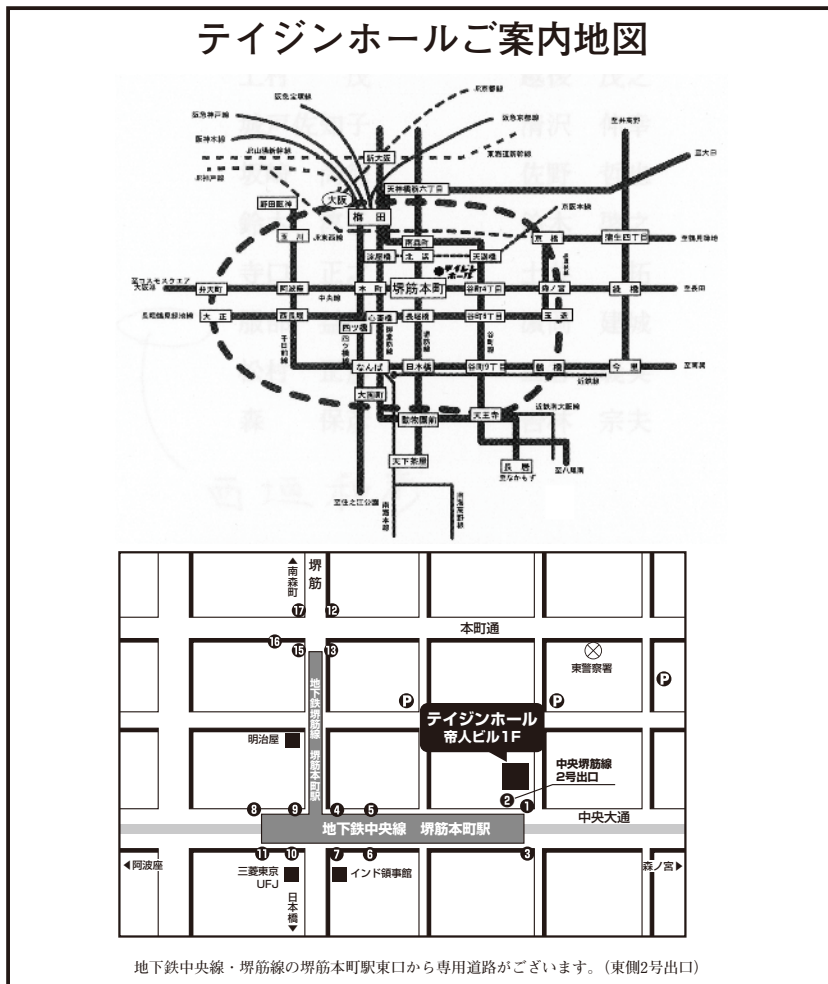


第37回 近畿川崎病研究会

日 時：2013年3月2日(土)
13:00~19:00

会 場：テイジンホール
大阪市中央区南本町1丁目6番7号
TEL 06-6268-3131



共 催 近畿川崎病研究会
帝人ファーマ株式会社

— 近畿川崎病研究会 —

第 37 回 会長

津田 悦子

運営委員長

濱岡 建城

運営委員

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 石田 明人 | 上村 茂 | 越後 茂之 | 荻野廣太郎 |
| 片山 博視 | 萱谷 太 | 城戸佐知子 | 清澤 伸幸 |
| 小垣 滋豊 | 米田 正始 | 坂崎 尚徳 | 佐野 哲也 |
| 篠原 徹 | 清水 達雄 | 鈴木 啓之 | 津田 悦子 |
| 寺口 正之 | 土井 拓 | 中川 雅生 | 西垣 和彦 |
| 服部 益治 | 濱岡 建城 | 深谷 隆 | 松村 正彦 |
| 三谷 義英 | 水戸守寿洋 | 村上 洋介 | 森 保彦 |
| 山川 勝 | 吉澤 弘行 | 吉林 宗夫 | |

顧問

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 尾内善四郎 | 川崎 富作 | 北村惣一郎 | 鈴木 淳子 |
| 横山 達郎 | | | |

名誉会員

| | | |
|-------|-------|------|
| 川島 康生 | 田村 時緒 | 森 忠三 |
|-------|-------|------|

事務局

京都府立医科大学 小児循環器・腎臓科

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町 465

TEL 075-251-5832

ホームページ <http://www.kinki-kawasaki.jp/>

E-mail kkjim1981@kinki-kawasaki.jp

—お知らせとお願い—

1. ご参加の方へ

- (1) 開始時間は午後1時です
- (2) 参加費は1,000円です
なお、本会に未加入の方はご入会のほどお願いいたします。
(年会費は3,000円です)
- (3) 本会の日本小児科学会認定医研修単位は、5単位となっています。
- (4) 本会の日本小児循環器学会認定医研修単位は、8単位となっています。

2. 演題発表について

- (1) ご講演は、PCプレゼンテーションのみとなります。タブレットPC、iPadなどでの講演はできません。
- (2) 講演時間は、発表6分（討論4分）です。
- (3) ご発表予定時間の1時間前までに、USBメモリ（ご発表データのみを保存）をホール1階「データ受付」にお持ちいただき、受付をお済ませください。
- (4) ご発表内容が動画を含む場合は、必ずご自身のPC本体でデータをご持参ください。
 - ・会場で用意するコネクタの形状はD-sub15ピンのみです。
 - ・ACアダプターは必ずお持ちください。
- (5) ご発表データは、Windows、MacintoshともにPowerPointで作成されたものをご用意ください。
- (6) 使用OS（データ作成時）は以下のもので作成ください。
 - Windows : XP、Vista、Win-7、Win-8
 - Macintosh : OS X
- (7) アプリケーションソフトは、以下のものをご用意いたします。
 - Windows : PowerPoint 2003、2007、2010 に対応
 - Macintosh : PowerPoint 2004、2008、2011 に対応
- (8) フォントは標準搭載されているものをご使用ください。
- (9) ファイル名は、プログラムNoと演者のお名前を入れて作成ください。
例) 演題 No14、近畿太郎先生の場合 ファイル名: 14 近畿.ppt
- (10) 講演終了後、舞台袖において、お預かりしたUSBメモリおよびPC本体をご返却いたします。
- (11) 講演内容は、Progress in Medicine 7月号（ライフ・サイエンス）に記録として掲載いたします。

※ 後日、ライフ・サイエンスから改めてご連絡いたします

【執筆要領】 400字原稿用紙で12枚以内（図表は別）

【原稿〆切】 2013年5月1日（予定）

【問合せ先】 (株) ライフ・サイエンス 日村 昭仁

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山

TEL 03-3407-8963

開会の挨拶 13:00~13:05

第37回会長 津田 悦子 (国立循環器病研究センター 小児循環器科)

【特別講演 I】 13:05~13:55

座長 濱岡 建城 (京都府立医科大学 小児循環器・腎臓科)

「冠動脈疾患における抗血栓療法」

東海大学医学部附属病院 循環器内科 後藤 信哉 先生

セッション I 13:55~14:55

座長 中川 雅生 (滋賀医科大学 小児科)

1. 川崎病罹患時に環軸椎回旋位固定を合併した5歳女児例

中野こども病院

保坂泰介 石井紘介 寺口正之 村上貴孝 園府寺 美
木野 稔

2. 川崎病の急性期に突発性発疹を発症した1例

和歌山県立医科大学 小児科

末永智浩 鈴木啓之 垣本信幸 武内 崇 吉川徳茂
社会保険紀南病院 小児科
渋田昌一

3. 年長のため川崎病が病初期に診断されなかった3症例

近畿大学医学部 小児科

井上智弘 篠原 徹 丸谷 怜 今岡のり 竹村 司

4. ステロイドパルス6日後に再燃し冠動脈瘤を形成した川崎病の3歳男児例

日本赤十字社和歌山医療センター 小児科

井庭憲人 高橋俊恵 額田貴之 古宮 圭 深尾大輔
中治倫子 井上美保子 原 茂登 儘田光和 濱畑啓悟
吉田 晃 百井 亨

5. RAISE studyに基づき治療を行ったが、両側巨大冠動脈瘤を形成した難治性川崎病の1例

市立枚方市民病院 小児科

蘆田温子 岡空圭輔

大阪医科大学附属病院 小児科

尾崎智康 岸 勘太 片山博視 玉井 浩

6. アルブミン全置換血漿交換法により凝固因子の一過性喪失を来した川崎病乳児例

京都大学 小児科

田口周馬 馬場志郎 平田拓也 山口英貴 鶴見俊文

土井 拓 平家俊男

セッションⅡ

14:55~15:55

座長 三谷 義英 (三重大学大学院 小児科学)

7. 川崎病による無症候性冠動脈閉塞をもつ患者の左室壁運動について—2D スペックルトラッキングを用いた検討—

国立循環器病研究センター 小児循環器科

平井聖子 津田悦子 羽山陽介 佐々木理 海老島宏典

安田謙二 黒寄健一 白石 公

8. 心臓カテーテル検査を施行した冠動脈後遺症例の外来経過の検討

大阪市立総合医療センター 小児循環器内科

佐々木 赴 藤野光洋 平野恭悠 小澤有希 江原英治

村上洋介

大阪市立総合医療センター 小児不整脈科

吉田修一朗 吉田葉子 鈴木嗣敏

9. ICD(植込み型除細動器)治療を施行した川崎病既往3症例

国立循環器病研究センター 小児循環器科
星野真介 津田悦子 阿部忠朗 坂口平馬 宮崎 文
国立循環器病研究センター 心臓血管内科
岡村英夫 里見和浩 清水 渉 鎌倉史郎

10. ST低下のある川崎病冠動脈障害合併妊娠の2例

国立循環器病研究センター 小児循環器科
小森暁子 津田悦子
国立循環器病研究センター 周産期科
堀内 緑 神谷千津子 吉松 淳
武蔵野赤十字病院 産婦人科
菅野素子
国立病院機構香川小児病院 小児科
太田 明

11. 急激に心機能が低下した成人川崎病既往の1例

国立循環器病研究センター 心臓血管内科
中村知久 藤野雅史 野口暉夫 坂本裕樹 後藤葉一
石原正治 安田 聡 小川久雄
国立循環器病研究センター 心臓血管外科
島原佑介 小林順二郎
国立循環器病研究センター 小児循環器科
津田悦子

12. 川崎病右巨大冠動脈瘤形成後の遠隔期に血栓閉塞により死亡した1例

倉敷中央病院 小児科
石塚 潤 江口克秀 岩井 篤 田窪翔子 宮下徳久
吉永大介 萩野佳代 林 知宏 脇 研自 新垣義夫
倉敷中央病院 循環器内科
門田一繁 光藤和明

コーヒーブレイク 15 : 55～16 : 15

事務局報告 16 : 15～16 : 20

近畿川崎病研究会 運営委員長 濱岡 建城

ラウンドテーブル 16 : 20～17 : 00

座長 津田 悦子 (国立循環器病研究センター 小児循環器科)

「巨大冠動脈瘤全国調査における死亡例の検討」

調査報告 日本医科大学付属病院 小児科 深澤 隆治 先生

コメンテーター

大阪厚生年金病院 小児科

佐野 哲也

兵庫県立尼崎病院 小児循環器内科

坂崎 尚徳

中野こども病院

寺口 正之

セッションⅢ 17 : 00～18 : 00

座長 村上 洋介 (大阪市立総合医療センター 小児循環器内科)

13. 日本における川崎病の出現と罹患率上昇の原因について

相雲会 小野田病院

長尾吉郎

14. 当院における乳児川崎病の検討

大阪市立総合医療センター 小児総合診療科

湯川理己

大阪市立総合医療センター 小児循環器内科

小澤有希 江原英治 村上洋介

大阪市立総合医療センター 小児救急科

天羽清子 外川正生

愛染橋病院 小児科

塩見正司

15. RAISE 研究のサブ解析による至適治療開始病日

京都府立医科大学 小児循環器・腎臓科

池田和幸 八幡倫代 岡本亜希子 濱岡建城

東邦大学医療センター大森病院 小児科

佐地 勉

群馬大学大学院 小児科学分野

小林 徹 荒川浩一

名古屋大学 小児科

加藤太一

九州大学大学院 成長発達医学分野

原 寿郎

日本医科大学 小児科

小川俊一

東京都立小児総合医療センター

三浦 大

鹿児島大学大学院 小児発達機能病態分野

野村裕一

NTT 東日本札幌病院 小児科

布施茂登

富山大学医学部 小児科

市田路子

日本大学医学部 小児科

鮎沢 衛

国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー研究部

阿部 淳

北関東アレルギー研究所

森川昭廣

RAISE Study Investigators

16. 川崎病急性期各症状と血清免疫グロブリン A の特異的な動きについて

兵庫県予防医学協会 健診センター

富田安彦 山浦泰子 島谷真希 武田弘子 高橋かおる

和田福子 田中一朗 中谷利夫 安田敏成

神戸市立医療センター中央市民病院 小児科

田中麻希子

17. 川崎病による冠動脈障害患者における高感度 CRP 値の検討

奈良県立医科大学 小児科

吉澤弘行

国立循環器病研究センター 小児循環器科

津田悦子

18. 追跡脱落例への対応ー主治医からの呼びかけへの反応ー

近畿大学医学部 小児科

篠原 徹

【特別講演Ⅱ】

18 : 00～18 : 50

座長 鈴木 啓之（和歌山県立医科大学 小児科）

「川崎病のサイトカイン ー原点から今後の展望ー」

順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科 松原 知代 先生

閉会の挨拶

18 : 50～19 : 00

第 37 回会長 津田 悦子（国立循環器病研究センター）

第 38 回会長 萱谷 太（大阪府立母子保健総合医療センター）

帝人ファーマ株式会社

1. 名称
近畿川崎病研究会（The Society of Kinki Area Kawasaki Disease Research）と称す。
2. 目的
川崎病の病因、病態、病理、治療及び管理等について、基礎及び臨床の両面から研究するとともに、学術集会を開催し、医学の発展に寄与する。
3. 事業
 - 1) 上記の目的を達成するために運営委員会を組織し、学術集会を年1回開催する。その内容は、広く公表することを原則とする。
 - 2) 学術集会は参加費を徴収し、その運営に充てる。
 - 3) 本事業は、帝人ファーマ株式会社との共催とする。
4. 運営委員会
 - 1) 本会に次の役員を置く。

| | |
|--------|-----|
| ①運営委員長 | 1名 |
| ②運営委員 | 若干名 |
| ③会計 | 1名 |
| ④監事 | 1名 |
| ⑤顧問 | |
| ⑥名誉会員 | |
 - 2) 運営委員及び運営委員長は、運営委員会が推薦、選出する。
 - 3) 運営委員長は、本会を統括し、その任期は3年とする。なお、再任をさまたげない。
 - 4) 運営委員は年齢の上限を満65歳とし、満65歳に達した年度末（3月）をもって退任とする。
 - 5) 運営委員会は、学術集会を主宰するための会長の選出を行う。会長の任期は1年とする。
 - 6) 運営委員会は、会長を補佐し、学術集会の企画、運営及び記録集の発行等を行う。また、本会運営に関する重要な事項を審議する。
 - 7) 会計及び監事は運営委員の中から推薦、選出し、任期を3年とする。
 - 8) 会計は運営委員会において前年度の会計報告を行う。
 - 9) 監事は本会の会計及び資産を監査する。
 - 10) 名誉会員は運営委員長が運営委員会にはかり、推薦される。名誉会員は原則満65歳以上の運営委員を退任した者を対象とし、本会に特に貢献のあった者とする。
 - 11) 顧問は運営委員長が運営委員会にはかり名誉会員の中から会の運営上必要と認めたとし、運営委員会に出席できる。
5. 会員
 - 1) 本会に入会希望する者は氏名、住所、所属を明記し、本会事務局に申し込む。
 - 2) 退会しようとする者はその旨を本会に通知する。また、年会費を3年間滞納したときは退会したものとみなす。
6. 学術集会の発表者の制限
学術集会で発表できる者は本会の会員に限定する。特別講演など当番会長が承認した場合はこの限りではない。
7. 会計
 - 1) 本会の会計は年会費、参加費及びその他の収入をもって充て、会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。
 - 2) 年会費は3,000円／人、参加費は1,000円／人とする。
継続して学術集会に参加の意思がなく、本会の会員登録を希望しない場合は参加費（1,000円／人）のみの学術集会への参加を認める。
 - 3) 名誉会員および顧問は年会費を要しない。
8. 会則の変更
本会則は、運営委員会の議決を経て変更することができる。
9. 事務局
本会の事務局は運営委員長の所属施設に置くものとする。
京都府立医科大学 小児循環器・腎臓科
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465

Kenketsu **Venilon[®]-I**

Intravenous Immunoglobulin



血漿分画製剤 特定生物由来製品 処方せん医薬品^注
献血 静注用免疫グロブリン製剤

献血ベニロン[®]-I

〈乾燥スルホ化人免疫グロブリン〉 薬価基準収載
生物学的製剤基準 注) 注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

静注用 500mg
静注用 1000mg
静注用 2500mg
静注用 5000mg

販売
TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

〒100-8585 東京都千代田区麹が関3丁目2番1号
資料請求先: 帝人ファーマ(株) 学術情報部

製造販売
化血研 製化学及血清療法研究所
東京都文京区本郷4丁目1番1号 TEL:03-5682-1145
資料請求先: (財)化学及血清療法研究所営業管理部

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

VEN902 (MI) 0909改7 作成年月2009年9月



粘膜付着型鼻過敏症治療剤

薬価基準収載

処方せん医薬品^注

リノコート[®] パウダースプレー鼻用 25 μ g

Rhinocort[®] Powder Spray 25 μ g 〈ベクロメタゾンプロピオン酸エステル製剤〉

効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

注) 注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

製造販売元

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

〔資料請求先〕 学術情報部

〒100-8585 東京都千代田区麹が関3-2-1

RCM802 (AU) 1002改1 2010年3月